

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101323		
法人名	社会福祉法人 日浦会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム レーブそとめ	ユニット名	
所在地	〒851-2324 長崎県長崎市上黒崎町2199-14		
自己評価作成日	平成25年2月7日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成25年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オゾンに包まれた山頂より、海が望める自然環境が自慢です。野兔やキジバトなどの小動物も見られます。庭先には花畑や野菜畑があり、芋掘りをしたり、草花を鑑賞したりして入居者の楽しみの一つになっています。またホーム内ではシーズ犬(名前はサンボ)や金魚を飼っていて、入居者の癒しになっています。そういう環境の中で入居者の方に安心して生活して頂いております。暖かい日には外で外気浴を兼ねてのレクリエーションを行ったり、老健施設や隣の武番館等を散歩したりしております。鬼火焼きや夕涼み会、花見等の屋外での行事も入居者の楽しみとなっております。

入居者の方々と職員は馴染みの関係になっている。仕事の終わりに「おつかれさま・帰りも気をつけてね」と言う優しい言葉を入居者の方が掛けて下さり、職員の大きな“やりがい”になっている。日々の生活では、入居者の方が自主的に体操をされる姿が見られ、ホーム内の歩行訓練もされている。食事介助が必要な方もおられるが、ご本人が持ちやすい食器を見つける事ができ、ご自分で食事ができるようになった方もおられる。料理の下ごしらえや洋裁などの生活リハビリにも取り組まれ、老健のPT・OT・STからリハビリのアドバイスを頂く事もできている。入居されている方の行動障害が見られた時は過去の記憶や生活歴を大切に把握し、入居時に馴染みの場所を会話に盛り込んだり、家族が住んでいる所や昔からの馴染みの場所にドライブにお連れして、思いを引き出す取り組みも続けている。愛犬(サンボ)のカットに連れて行く時に入居者も一緒に同行し、時津方面のドライブなどを楽しんでいるが、今後もお花見などの外出を増やしながら、“入居者(家族)と職員のふれあいの時間を作る”機会を作っていく予定にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を共有し、ホームの方針として「入居者と職員のふれあいの時間を作る」をH19年度より到達目標として入居者の方が満足して頂けるよう実践に努めている。	理念の2つ目に「常に施設をご利用される皆様の満足度の向上を目指す」が掲げられ、入居者のお好きな事や得意な事を把握し、介護計画にも盛り込まれている。雑巾縫いや洗濯物干し等を行う場面が増えており、着実に「満足度」が向上しており、馴染みの職員も多く職員間の和をもって明るい職場が保たれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	H21年4月より自治会に加入し、地域行事に参加しているが、特定の入居者の方しか参加できない状況である。またホーム発行のたよりを配布している。	入居者の方が手縫いでクッション等を作り、地元のふるさと祭りに出品したり、地域主催のミニ運動会も楽しまれた。老健主催のゲートホール大会の見学や老健に保育園児や小中学生が来られた時は入居者も参加している。副施設長の提案もあり、24年度は初めて小学生がホームに来て下さり、入居者とリス作り等を楽しまれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところ行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会の立ち上げが難しいので、まずは全家族に運営推進会議の議事録を郵送あるいは手渡して運営推進会議というものを理解してもらっている。	参加者の方々からの意見を頂き、日々の業務に活かす事ができている。家族の方から地域で陶芸の作業体験をしている情報や花見情報を教えて頂いたり、派出所の方や自治会長からも地域情報や振り込め詐欺などの情報を教えて頂いている。ホームの事を思っの意見を積極的に伝えて下さっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長崎市すこやか支援課や包括支援センターの担当者には月1回「レーブだより」を郵送したり、運営推進会議の案内や議事録を郵送している。また包括支援センター主催の外海地区ネットワーク会議に出席している。	24年度から外海地区ネットワーク会議(年3回)にも参加し、地域の方とエコマップ作りや勉強会を行っている。併設施設の相談員とケアマネが申請等の事務手続きを行っており、ホームから市の窓口に向う事はないが、運営推進会議の場で転倒防止マニュアルのアドバイス等を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は常に玄関、窓はオープンになっており自由に入出入りしている。出て行くとする人に対しては玄関ドアにつけている鈴や他の入居者に呼んで頂き、職員が対応している。また、エスポールの職員にも協力してもらって電話連絡で対応している。	行動障害の原因に目を向けるようにしており、離設行為がある場合は職員と一緒に付き添い、ご本人が納得されるまで近くを歩くようにしている。車椅子から立ち上られる方は、転倒のリスク等も考慮しながら職員の見守りを続けており、ホーム独自の転倒防止マニュアルも作られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人グループの研修会や外部研修で高齢者虐待防止関連法を学び、事業所内での虐待がないよう職員どうし注意しあっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の病状悪化や異常行動の時は緊急に家族に連絡し、十分に説明し家族の理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは要望を職員が聞いたり、家族からは面会や電話で相談にのったりしている。また御意見箱を設置し、職員に対する不満は法人内老健施設の支援相談員が受け付けている。	面会時に家族とお話する機会を作っており、ホーム便り等にも写真を載せて日頃の状況を報告している。24年は新しく入居された方も多く、日常の小さな事も相談頂いており、家族の面会も増えている。家族と話し合う関係はできており、密に電話をして、お話をする機会を作っている。	老健との合同誕生会に家族が来て下さり、その後、少人数の家族がホームで集う機会が作られている。新しい家族も多く、今後も引き続き、ホームの家族同士で交流できる機会を増やしていく予定にしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のレーブ会議や日々の申し送りで職員の意見を集約し、月2回の主任会議で報告している。	長く勤務している職員が多く、“あうんの呼吸”で意思疎通ができる関係ができています。職員の意見を反映して個人毎のバイタルチェック表も作られ、改善内容等を含めて、“気がついたらその場で言おう(後からは忘れるので...)”という環境ができています。レーブ会議の議論内容も明確に記録に残されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同グループ内の病院で日勤者は年に1回、夜勤者は年2回の健康診断を実施し、職員の心身の健康を保つための対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、業務に差しつかないように法人内外の研修を勧め、研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の見学は行っているが、ネットワーク作りは行っていない。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されてから詳しい話を聞いて本人の安心を確保するため自宅でなじみの物を居室に置いたり使用して頂いたりして安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話で気軽に相談できる体制を取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内老健施設の支援相談員が窓口になり対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の手助けを行いながら入居者の意向を第一に考え、話し合いながら築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	同グループ内の病院以外の受診や困ったことがあれば一緒に対応策を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来て頂ける雰囲気を作っている。隣のレーブ式番館や老健施設におられる友人との交流も続いている。	行動障害の原因が生活歴にある事が多く、過去の記憶の把握や地元での生活の把握にも努めている。入居時に馴染みの場所を会話に盛り込み、思いを引き出すようにしたり、姉妹が住んでいる所や昔からの馴染みの場所にドライブにお連れして、懐かしさを味わって頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事での余興参加、ホーム内での共同作業などを通じて交流を深めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は家族・病院と連絡を取り、安心して頂けるようにしている。希望のある方は戻って頂けるよう窓口である法人内の老健施設の支援相談員と連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望に応じ、生活して頂けるよう買物・リハビリを実施している。困難な場合は表情を汲み取り話を聞いたり、一緒に散歩に出掛けたりしている。	生活習慣や趣味等を把握しながら、“ご本人を知る”事を大切にしている。団欒時や入浴時に楽しい時代の事を話して下さる方も多いが、被害妄想の強い方は、以前生活されていた場所に原因がある事もあり、その場所を入居者と訪れ、ご本人の表情や動作から、“何をされたいのか”を察する取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴を考慮して活躍場面を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のレーブ会議・申し送りで職員全体が把握しており、個々にできるところにその力を発揮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員がそれぞれ1～2名の入居者を担当し、日々の過程について責任を持って介護計画に盛り込み、月1回のレーブ会議で職員全員で確認し合っている。またモニタリングを実施し職員全員で評価している。	ご本人と家族の意向や生活歴等も聞きながら、計画に反映させている。“清掃や食器洗い、畑仕事、散歩”などの役割や楽しみも盛り込まれ、下肢筋力低下の予防を大切にして、“ホームの中を〇回歩く”などの目標を掲げている方もおられる。脳の活性化を図るため、紙ちぎり作業などもして頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、申し送りノートに記載し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物やドライブを必要に応じて行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地元の自治会長や民生委員、警察の方にも参加して頂き、長崎市すこやか支援課または地域包括支援センターの職員の同席のもとで周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の回診や定期受診の介助をし、家族には文書にて受診状況を説明している。また距離の離れた医療機関には家族同伴で受診をお願いしている。その際必要な書類は家族に持たせている。	毎週の回診時に入居者の健康状態の相談ができており、介護保険の意見書の記入もして頂いている。夜間は併設施設の看護師に相談し、必要に応じて来訪して頂けており、24時間体制で医療連携が図られている。遠方は家族が受診支援して下さり、受診結果の情報共有もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日3回バイタルチェックを行い、異常がある時は法人内老健施設の看護へ報告し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報を交換し、法人内の支援相談員が窓口となり、そうした場合に備え連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日浦グループ内の病院、老健施設で対応できるようになっている。	ホームで看取りケアを行う方針はなく、入居時に重度化や急変時の対応について説明している。状態が変化した場合は職員も病院に同行し、入院や入所等の検討をご本人と家族と行い、日浦グループ内の病院、老健施設で対応できるように体制を整えている。重度化しないようリハビリや体操を取り入れ、老健のPT・OT・STにも相談し、リハビリのアドバイスも頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は同法人の老健施設の看護に連絡し、対応できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同グループ内で災害時の連絡体制を作り、協力体制を築いている。また、その他の災害に備えてマニュアルに基づいて避難経路を確保している。	24年5月、25年2月に入居者と一緒に昼夜想定避難訓練が行われた。スプリンクラーも設置され、掃き出しの窓になっており、上黒崎地区の総会で消防団の方に火災訓練への参加も依頼している。隣接ホームや併設施設の応援を受ける事ができ、井戸水は停電時も自家発電で利用できるようになっている。	今後は隣接する式番館との合同訓練を行い、その後は併設の老健や消防署との訓練を検討していきたいと考えている。日常の食材は日浦グループの老健施設と共同購入しているが、災害時の非常食に関しては現在も検討中である。

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症に係る研修等で職員の技術の向上に努めている。居室に入る時は合図して声掛けを行うと共に個々の物を触る時は了解を得るようにしている。	優しい職員が多く、プライバシーへの配慮を一番大切に支援している。トイレ誘導時には必ずカーテンやドアを閉め、他の方々に聞こえないように声かけしている。羞恥心への配慮もしており、希望に応じて同姓介助をしている。言葉遣いにも配慮し、ご本人の好まれる話題を盛り込むようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がゆっくりと傾聴する場面を作り、思いや希望を伝えて頂き、個人に合わせた対応を行っている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を重視し無理強いすることなく入浴、外出、買物、作業等一人ひとりに合わせて行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人に選んで頂き、髪をカットしたり、髭を剃るのを手伝っている。また家族の方が面会の際お化粧をして頂いている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の管理栄養士が献立を作り食材が届くようになっている。可能な限り入居者と職員が準備や後片付けを一緒に行っている。	ホームの菜園では季節に応じた野菜作りや収穫を入居者と一緒に行い、食材の一品として季節感を味わえるようにしている。ツワや里芋、芋づるの皮むき等は昔を思い出しながら皆さんでされており、米とぎ、食器の片付け、テーブル拭き等、できる範囲で手伝って頂いている。職員も一緒に食事を楽しまれている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が1日のカロリー計算をした献立を作っている。自分で水分摂取可能な人にはペットボトルにお白湯やお茶を入れて渡している。介助が必要な人には職員が随時水分補給をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きをして頂いたり、週2回薬剤を利用して入れ歯を洗浄している。自分でできない人は職員が介助している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、習慣を活かしてトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレや尿器を使用してもらっている。	自立している方が多く、共同トイレを2ヶ所増設した事でトイレ待ちが解消され、共同トイレのドアをカーテンに交換した事で、自由に出入りができるようになった。失禁を減らすために、利用者のサインやタイミングを見逃さないようにしており、個別のトイレ誘導を行う事で、トイレでの排泄が継続できるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のテレビ体操と水分補給の徹底を行い、主治医の診断のうえ便秘薬を投与している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴して頂き、具合の悪い時や気分がすぐれない時は次の日に入浴して頂いている。季節ごとに菖蒲湯や柚子湯で季節感を感じてもらったり、入浴剤の使用で香りや保温・保湿効果も楽しみの一つにしている。	拒否が見られる時は時間を置いたり、声かけの工夫をしている。浴槽の出入りが困難な方にはボードを設置し、そこに座って頂いて職員が介助する事で、安心して入浴して頂いている。湯船に浸かり、職員との会話を楽しまれる方や、気持ち良さそうにウトウトされる方もおられ、洗身も洗える所はご自分で洗って頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に湿温度計を設置し、温度の調整や寝具の手入れを行い、安心して休息したり眠れるような工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を入居者の個人ファイルに綴じ、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡したり服薬介助をしたりして、きちんと服用できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ人、おしぼりを作る人、食材の切込みができる人等一人ひとりの力を活かして役割を持ち、楽しみながら生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	法人内で行われる誕生会、行事に参加したり買物、散歩、ドライブに出かけている。また家族の方に連絡し、外出届けを提出したのち、本人の希望地に出かけられるよう支援している。	ホーム周辺を散歩される方もおられ、お花を摘んでリビングや居室に飾られている。職員の人員体制が整う時は崎戸までハイキングに行き、かんころ工場の見学をしたり、ドライブの帰りに夕陽丘の道ノ駅に買い物に行き、アイスクリームを食べられた。畝刈町の衣料店や京泊町のホームセンターで買い物をする機会も作られた。	24年度は利用者の体調もあり、外出が少なくなっていたが、今後は季節に応じた花見の機会を増やしていく予定にしている。以前は外出キャラバンを組んで、排泄時の囲いをダンボールで手作りしたり、屋外でカレーを作って楽しむ機会もあり、今後も再開していきたいと考えられている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多少の現金を持って頂いており週1回の移動パン屋から好きなパンを購入したり、必要に応じて買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の子機を利用し、いつでも利用して頂いている。必要に応じて手紙の代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り明るい空間を作っている。廊下やホールの壁には共同作品や写真等を飾って楽しんで見てもらえるようにしている。	リビングで過ごされる方が多く、台所も同じ空間にあり、料理の音も聞こえてくる。愛犬(サンボ)を可愛がる利用者の姿も微笑ましく、職員と一緒に雑巾縫い等しながら会話を楽しまれたり、テレビを見ながら利用者同士の会話も楽しまれている。ホームの裏庭に花壇や家庭菜園を作り、入居者も一緒に作業をされており、収穫した野菜で1品作られている。	常に入居者の生活を一番に考え、母体法人への申し出を行いながら、施設内外の環境改善に取り組まれてきた。今後も引き続き、玄関先から老健施設までの道端の一部にもフェンスを張り、より安全に散歩ができる取り組みを続けていく予定にしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気に入った場所で過ごして頂けるよう食卓・ソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使用していた物を置いて頂き、家族の宿泊の希望があれば布団や食事の提案をしている。	日常生活記録や行事の写真が飾られ、職員や家族と写真を見ながら会話が弾む事もある。テレビや洋服掛け、ソファ、衣装ケース、布団等を持参されており、愛用のお箸や湯呑みも使用されている。体調に応じてベッドの向きを変えたり、西日対策のすだれも使用している。加湿のため濡れタオルも下げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置しバリアフリーにしている。		

事業所名：認知症高齢者グループホーム レーブそとめ

作成日：平成 25 年 3 月 24 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果とともに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	利用者の体調もあり、外出が少なくなっていた。	年2回のバスハイキングを実施したり、入居者の要望に応じて買い物ツアーを実施する。	天気の良い日を選び、また入居者の体調を考慮してバスハイキングや買い物ツアーを計画する。	12 か月
2	35	地域との協力体制、特に隣接ホームや併設施設の応援は受けているが、実際に合同訓練はしていない。	隣接するレーブそとめ式番館との合同訓練を行う。	避難経路や役割分担の確認をし、特に夜間想定をして消防署の立会の下で消火訓練や避難訓練等を行う。	12 か月
3	52	玄関先から老健施設までの道端にフェンスがないので、入居者が歩くのに危険が伴う。	入居者が安全に歩けるようにフェンスを設置する。	運営推進会議を中心に入居者が居心地よく暮らしていけるように危険場所をピックアップし、上層部に働きかけてフェンスの設置をお願いする。	12 か月
4					
5					